



ささきじゅんこ 議員
佐々木純子

食育推進計画の現状は

〔答〕 成長に応じた実践

- 問** 子どもを産み育てる世代に対する、食育知識習得への取り組みは。
- 町長** 幼児健診や乳幼児の相談業務で啓発や指導を行っている。
- 問** 具体的な事例は。
- 生活部長** パパママ教室、離乳食教室、親子料理教室で行っている。小中学校での指導は。
- 教育長** バランスの良い食事を基本とし栄養教諭による学年に応じた指導を行っている。
- 問** 食育推進計画は今後どう推進していくか。
- 町長** 基本的な食習慣は、家庭の中で作られる。地産地消により、生産者の想いを伝えながら、食習慣を身につけられるよう進める。



親子料理教室 真剣です

国体

地元産物の活用は

〔答〕 持ち帰り可能な土産品を厳選

- 問** 町内産でビクトリーフラワーを作り、プレゼントすることは、町の産物を宣伝することになるのではないか。
- 教育委員長** 全ての方々への提供、花の保管などの問題もあり難しい。
- 問** どのようなものか。
- 国体推進課長** 真空パックの紅白もち、ドライフルーツのリンゴ、手ぬぐい、サンセットコスモスの種。観光交流協会発行の特産品カタログを選手・役員に差し上げる。



笑顔でお・も・て・な・し (紫波自転車競技場)

学校教育の在り方 審議は進んでいるか

〔答〕協議を重ね第一次答申へ

問 今後の目指す教育環境は。

教育委員長 「少子化の時代における町立学校の教育の在り方について」紫波町学校教育審議会に諮問している。近日中にまとめて答申される。

問 教育イコールまちづくりという観点から町長の考えは。

町長 生徒数の差により、環境に違いがあるように感じる。育つていった時、どういう影響を与えるか、専門家の意見を聞き、答申を

受け、町で対処すべきものに取り組んでいきたい。

就学前教育

問 就学前教育の推進は。

教育委員長 身に付ける力は、学校に入る前が

大切。必要な力の共有、保育現場で心、行動がどう育まれていくか、研究がスタートした。児童施設でのカリキュラム作りをする。

放課後児童クラブ

問 保育待機児童対策により、小学校の放課後児童クラブ（こ

どもの家）の定員などへ影響が及ぶと考えられるが、現状と課題は。

教育委員長 活動スペースはある程度確保しているが、赤石こどもの家の老朽化は否めない。

問 国が推奨する環境と比べ、改善すべき点は。また、各種助成制度を活用できない

か。

教育委員長 審議会の第2次答申も踏まえ、全町の視点から改善を図っていきたい。

子育て支援

問 乳児期は自分で育児をしたいが、生活のために働くとの声がある。少子化も教育

費が絡んでいると思う。大学まで教育費の無償化の考えは。

町長 成長段階で様々な課題があるが、0歳児への投資で解決できる部分もあるのでは。産後1年ゆつくりできる保障を国に働きかけていきたい。

費が絡んでいると思う。大学まで教育費の無償化の考えは。



むらかみひでのり
村上秀紀 議員



赤石こどもの家